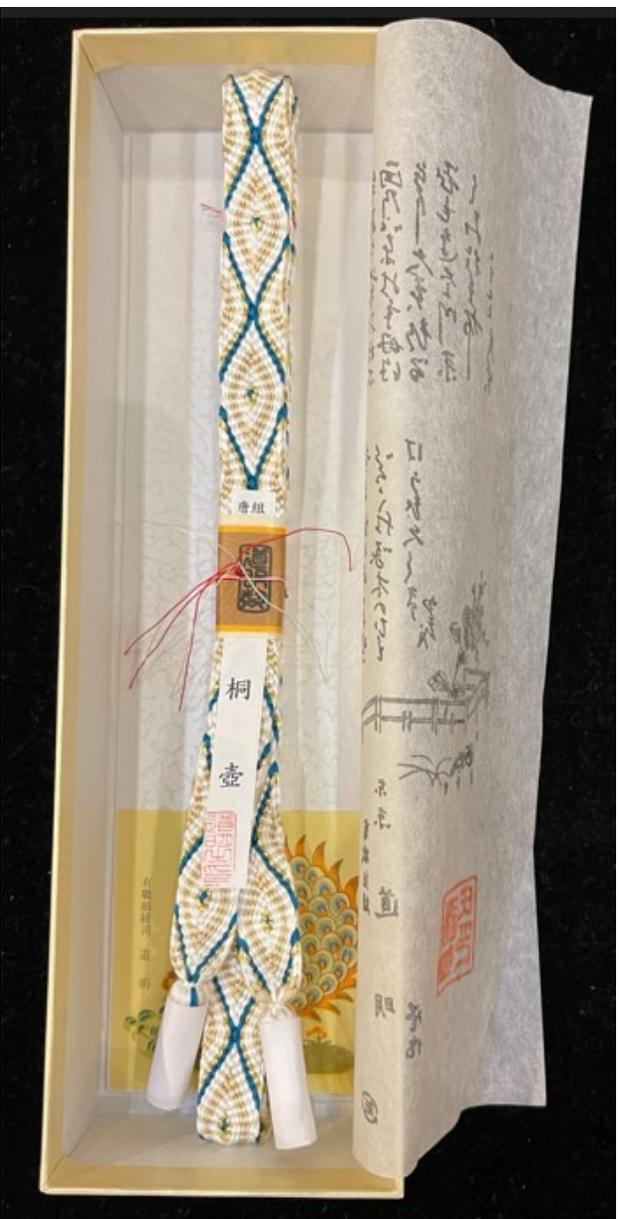


桐壺を結ぶ情けの春今宵 こよい

隅田の川面 かわも 桜散り浮く

令和四年三月三十一日

大中臣正比呂



並木駒形の浅草を後にして、隅田川の土手をそぞろ歩いて向島に渡った。

この辺りが「竹屋の渡し」か。満開の花弁は時に風に散らされ、

美しい姉妹の着物の裾をすり抜けて川面に達する。

上げ潮なら鐘ヶ淵まで、引き潮なら竹芝まで

桜の花びらは流れ行くかも知れない。